

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会  
学校図書館部  
令和5年5月26日  
No. 1

## 人生の楽しみ

現職研修委員会学校図書館部部长  
広幡小学校 校長 清松 治子

「一室の内に居て、天下四海の内を見、天地万物の理を知る。数千年の後にありて、数千年の前を見る。今の世にありて、古の人に対す。我が身愚かにして、聖賢に交わる。(家に居ながらにして、世界中のものを見て、あらゆる物事のことわりを知ることができる。数千年後の世の中に生きながら、数千年前の時代を見ることができる。現代に生きながら、歴史上の人物に会える。自分自身はそうでなくても、聖人君子や賢者と言われる人たちと交流できる。)」これな～んだ。

これは、江戸時代の本草学者であり儒学者の貝原益軒が著した『楽訓』にある文章です。貝原益軒と言えば『養生訓』が有名ですが、『楽訓』が著されたのは、『養生訓』より3年も前です。『楽訓』というくらいですから、そこには、人生の「楽しみ」について書かれています。

では、なぜなにに戻ります。最初に挙げたのは、何の楽しみについての文章でしょうか。(ここで10秒くらい時間をおいたことにして。)そうです。これは、「読書の楽しみ」について書かれた文章です。まあ、「学校図書館部長が部報に書くくらいだから、答えはそれしかないでしょう」と思われても仕方ありません。しかし、そうやって答えを導き出した方も、もう一度最初の文章を読んでみてください。いやいや、読書じゃなくてもできることでしょ、様々なものを映像で見るのが当たり前、調べ物は全部インターネットでという時代だよと言われてればそれまでですが、それで貝原益軒が言う「楽しみ」は得られるでしょうか。

読書の楽しみの醍醐味は、想像力にあると思います。言葉から想像の翼を広げ、どこにでも行き、誰にでもなれる。そうやって手にした想像力は、その人の心の栄養となって、思いやりとか希望と呼ばれるものになるのでしょうか。だからこそ、読書の楽しみが、人生の楽しみの一つに数えられるのだと思うのです。

偉そうなことを言ってきましたが、実は、私は『楽訓』を読んでいません。先日読んだ、青山文平著の『本売る日々』に『楽訓』が出てきて、そこで考えたこと、思ったことを書いただけなのです。本当にすみません。

でも、改めて思います。「今の世にありて、古の人に対す。我が身愚かにして、聖賢に交わる」とは、まさしくこのことかと。

# 令和5年度 学校図書館部 研究主題・重点目標 豊かな心情を培い、主体的に学ぶ力を育てる

## (1) 「読書の楽しさを知り、進んで読む態度を育てる」

- ・読書に対する興味を誘発する手だてを工夫し、読書意欲の高揚を図る。
- ・読書の機会を意図的に設けて、その習慣化を図る。
- ・読書を通して、自己を向上させる取組を推進する。



## (2) 「情報・メディアを活用する能力と自ら学ぶ意欲を育てる」

- ・情報・メディアを正しく活用する方法を身に付けさせるため、系統的に、学校図書館の活用指導を進める。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、情報・メディアを積極的に活用した教育活動の展開を図る。

## 図書館部紹介



部長 清松 治子 (広幡小)  
山本 伸 (秦梨小)  
指導員 近藤 秀子 (六ツ美北部小)

世話係 松本 友子 (大樹寺小)  
宮地 久美子 (小豆坂小)  
岡本 妃南美 (六名小)  
竹内 公一 (広幡小)  
白形 奈穂 (北中)  
加藤 夕貴 (六ツ美北中)

## 学校の図書活動

愛宕小学校では、年に2度読書週間があり、それぞれの期間に図書委員会で企画したイベントが行われます。あじさい読書週間では、図書室に多くの子が来てくれるようスタンプラリーを実施。どんぐり読書週間には、普段から取り組んでいる読書記録のコンクールを行いました。自分のお気に入りの本について書いた力作がたくさん出品され、審査に関わった図書委員会の子たちもうれしそうでした。今年も楽しいイベントを企画しようと子供たちは張り切っています。



▲読書記録優秀作品

(愛宕小 山田 茜)

河合中学校では、全校5クラスという小規模校の実態を活かし、図書室と学級文庫の連携を図っています。学級文庫には、先生おすすめの本が並んだり、総合的な学習で必要な本が常備されたりしています。中学生になると、図書室から足が遠のいてしまう子も少なくありません。図書委員会では、どうすればもっと全校の生徒が進んで読書を行うのかを考えました。呼びかけをする、新しい本が入ったら宣伝をするという様々な意見が出る中で、みんな



▼先生 & 生徒おすすめの本

が興味のあるような本を学級文庫に持っていこうという意見が採用されました。持っていた本を夢中になって読む子がクラスにいる様子を見た図書委員の子は、とてもうれしそうでした。少しの工夫で、本を読む子が増えるということに気付かされた出来事でした。小規模校であることを活かした工夫を今後もしていきたいと思います。(河合中 吉岡英里奈)